8月の空を見上げて　　（メルマガ　2020年8月号）

8月1日、関東地方では長かった梅雨がようやく明けました。平年の梅雨明けは7月21日とのことですから、これより11日遅く、8月の梅雨明けは13年ぶりのことだそうです。コロナ禍の閉塞感が漂う中で、更に梅雨の鬱陶しさが続いていましたから、今年の梅雨明けは本当に嬉しく感じました。

梅雨明けとともに、夏の空に眩しいばかりの青空が戻ってきました。8月2日の夜に、国際宇宙ステーション（ISS＝International Space Station）/「きぼう」が観察できるというニュースが目に留まりました。暗いニュースや話題が多い中にあって、久しぶりに胸がワクワクする出来事でした。調べてみると、ISSは地上から約400km上空に建設された巨大な有人実験施設で、1周約90分というスピードで地球の周りを回りながら、実験・研究、地球や天体の観測などを行っているそうです。

ISSは国際パートナー各国がそれぞれに開発したパーツで成り立っていて、日本が開発した日本実験棟「きぼう」もISSに結合されています。ISS全体の大きさは、108.5m×72.8m、ほぼサッカー場と同じ大きさとのことですから、それだけの物を宇宙空間に建設したことだけでも驚きですし、その大きさの物が宇宙空間に浮かんでいると思うとなおさらです。

8月2日、3日、5日、私のところでは、幸い気象条件に恵まれ、ISS/きぼうを観察することができました。8月2日の夜は、北西の空から1等星くらいの明るさで姿を見せ、ほぼ真上を通過するような軌道を描いて、南の空に消えて行きました。予想していたよりも大きく見え、宇宙を身近に感じる思いでした。また、あの輝きの中で、人間が活動していると思うと、神々しくも感じられました。わずかな時間ですが、感動したひと時でした。

コロナ禍にありますので、「きぼうを見る」という言葉からも、明日への希望を祈るような気持ちになりました。メルマガ読者の皆様にも、ご覧になった方がいらっしゃると思いますが、どのようなお気持ちになられたことでしょうか。

ISSは、アメリカ、ロシア、日本、カナダ及び欧州宇宙機関（ESA）が協力して運用している宇宙ステーションだそうですが、宇宙空間で、世界各国が協力し合って活動できていることの尊さを覚えます。

さて、8月6日の広島、9日の長崎に原爆が投下されてから、今年で75年を数えます。

「どうして私たち人間は、核兵器をいまだになくすことができないのでしょうか。人の命を無残に奪い、人間らしく死ぬことも許さず、放射能による苦しみを一生涯背負わせ続ける、このむごい兵器を捨て去ることができないのでしょうか。」　「もし、核兵器が使われてしまうまで、人類がその脅威に気づかなかったとしたら、取り返しのつかないことになってしまいます。」　田上長崎市長の長崎平和宣言での言葉です。

いつの日も、安心して、希望をもって空を見上げることができること。その喜び、尊さを絶対に忘れてはなりませんし、若い世代の人たちに戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐ努力を怠ってはならない、と8月の空を見上げて思うのです。（N.W）